

# 全老健の新ケアマネジメント方式に対応した「R4Navi」の提供で在宅復帰率向上を支援

介護老人保健施設における利用者の在宅復帰を推進するため、公益社団法人全国老人保健施設協会(全老健)では新しいケアマネジメント方式「新全老健版ケアマネジメント方式～R4システム～」の利用を推進しています。当社は、この方式にいち早く対応した介護老人保健施設業務支援パッケージ「R4Navi」の販売を開始しました。合わせて、全老健主催の全国老健大会への出展や全老健支部主催の研修会の支援など、R4システムの普及・啓発に努めながら、在宅復帰率向上への取り組みを支援していきます。

## よりよいケアを目指した 独自プランへ

施設介護サービス(入所サービス)を提供する介護保険施設には、介護老人保健施設(老健施設)、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設などがあります。中でも老健施設は、病状安定期にあり、入院治療をする必要はないがリハビリテーションや看護・介護を必要とする要介護者を対象とした施設で、入所者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにするとともに、入所者の居宅における生活への復帰を目指すことを目的として整備されました。

わが国は、世界でも類を見ない水準の医療・介護制度を確立し、国民皆保険のほか平均寿命でも世界トップクラスを誇っています。一方で、平均入院期間はアメリカの5倍、ドイツの3倍となっており、慢性的な病床不足や、自宅での療養を望む利用者の声に対応できていないのが現状です。そこで、厚生労働省は在宅復帰の推進を目的に、平成24年度の介護報酬改定で在宅復帰・ベッド回転率の高い老健施設を評価し、高い介護報酬が得られることにしました。

しかしながら、在宅復帰を推進するには、従来の施設ケアマネジメント(適切な介護計画を立て、サービスを提供すること)では、「アセスメントばかりに時間がとら

れ、真のニーズが見つからず、なかなかケアプランが完成しない」とか「ケアプランまでは作成できても、その実行が出来ない」といった意見が多く、これまでのケアマネジメントの問題を解決する必要があります。

そこで、全老健では、従来のケアマネジメント方式である「包括的自立支援プログラム」を見直し、在宅復帰を目的としたケアの進め方に改善していくため、老健施設の役割・機能を反映させた新しいケアマネジメントの考え方である「R4システム」を提案しました。

## 全老健の認証第1号となった R4Navi

「R4システム」(新全老健版ケアマネジメント方式)は、在宅復帰という老健施設の原点に立ち返り、利用者のアセスメントからケアプラン(Plan)、ケア実績(Do)、評価(See)の構築に主眼を置き、チーム介

護を効率よく実践できる大変優れたアセスメント方式です。

図-1のように、R-1のステップでは、これまで「アセスメント」と一括りにされていたものをA-1からA-4の4つの段階に区分することで、その流れがより明確化されています。R-2のステップではケアカンファレンス(専門職による議論)を行い、入所後ケアプランを策定します。R-3のステップではケアプランの実施と確認を行い、ケアプランの周知とDoの担保(プランの実行)を行います。最後に、R-4のステップでモニタリングを行い変化のチェックやDoの評価を実施し、R-1のステップに戻りケアプランの再作成を行います。

R4システムの効率的な実施と確実な運用を支援するソフトウェアが、当社が販売するR4Navi(開発元:(株)レゾナ)です。ソフトウェアの主な特徴としては次のようなものがあります。

### (1) アプローチステータス機能

R-1からR-4までの各アプローチの状況

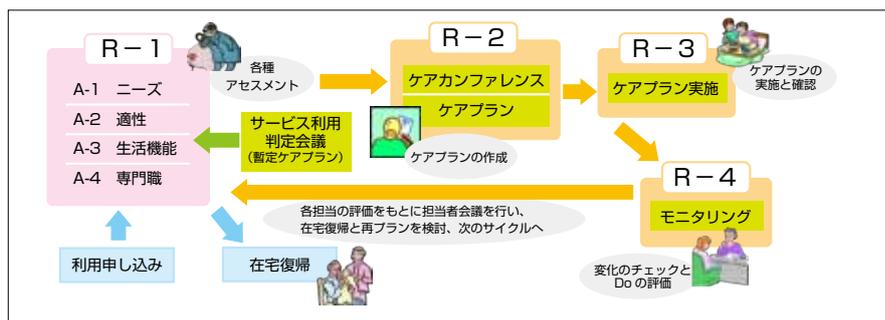


図-1 R4システムの概要

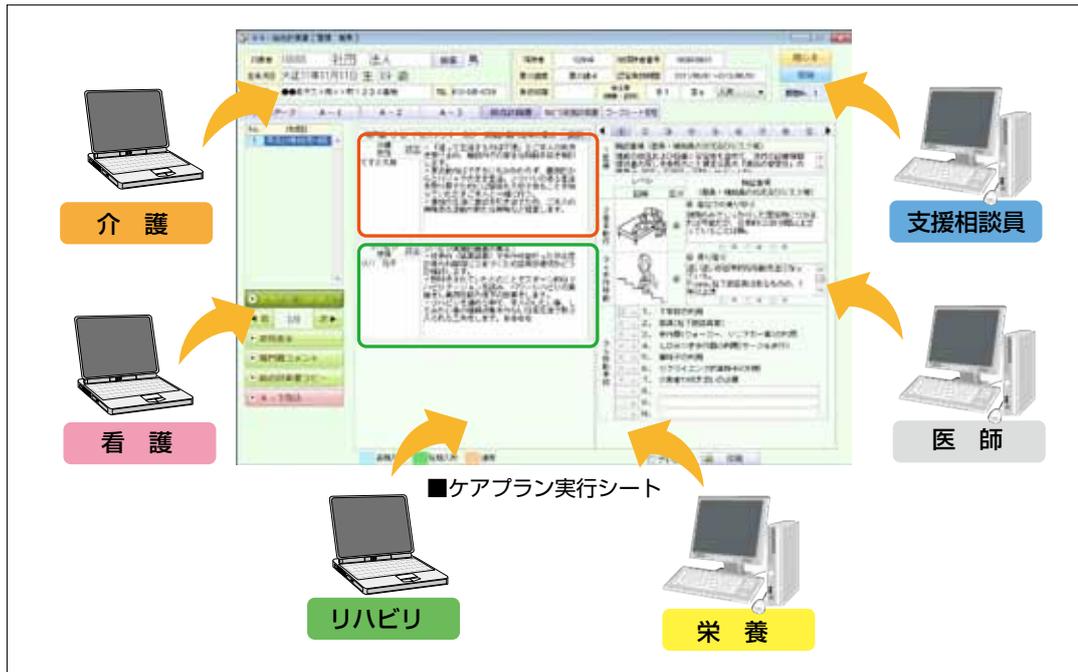


図-2 電子カンファレンス機能

を容易に確認でき、利用者ごとの各シート  
の作成状況や履歴が一目で分かる

#### (2) プロフィール機能

ケアプランの総合計画書は、全老健の  
標準様式のみではなく、施設独自の様式  
も追加することができる

#### (3) 電子カンファレンス機能 (図-2)

利用者のケアプランを介護福祉士、看  
護師など多職種で同時に入力することが  
でき、プロジェクトなどを利用した電子カ  
ンファレンスを行うことにより、その場で暫  
定ケアプランや入所後ケアプランを完成  
させることが可能である

#### (4) Doチェック機能

ケアプランの実施確認を行うための  
Do-Checkシート及び、現場の介護福祉  
士が持ち歩けるDo-Checkカードの作成  
が可能であり、ケアの質の向上が期待で  
きる

#### (5) ICFビュー機能 (図-3)

利用者のICF(生活機能)レベルの経過  
を視覚的パターン(レーダーチャート)で表  
示し、在宅復帰に向けたモニタリング及び  
ケアプラン再作成の分析検討を支援する  
ことができる

#### (6) 入力業務省力化機能

他委託のケアマネー  
ジャーから提供された  
情報や、主治医からの  
紙ベースの情報をペン  
タイプのスキャナでデー  
タとして取り込むことが  
可能である

### 3,500の施設への 普及を

R4Naviは、全老健よ  
り「R4システム」に準拠  
したソフトウェアとして  
認証第1号を取得して  
おり、他社に先駆けて  
2012年10月から販売

を開始するとともに、全老健共済会経由  
にて全老健会員約3,500施設に対し案内  
を行っています。またR4システムへの対応  
のみならず、介護保険請求機能を実装し  
たR4Navi(請求版)も提供していて、幅広  
く老健施設のニーズに対応することが可  
能です。

R4システムの必要性をさらに認識して  
いただくために、全国老健大会や各地で  
開催される全老健支部大会などに出展  
することで認知度を高めています。また、  
老健施設の経営者や現場のケアマネー  
ジャー、支援相談員などを対象とした全  
老健支部主催のR4システム研修会にも  
協賛し、実際にR4Naviをパソコンで操  
作・体験して具体的な運用のイメージを  
掴んでいただくなど、積極的な普及を進め  
ています。

今後も、全老健各施設の在宅復帰推進  
に向けた支援として、研修会の協賛に加  
えて、各施設の現場の声を取り込んで使  
い勝手などのブラッシュアップを図りなが  
ら、老健3,500施設への普及に努めてい  
きます。

(ヘルスケア事業統括部 川本夕紀)

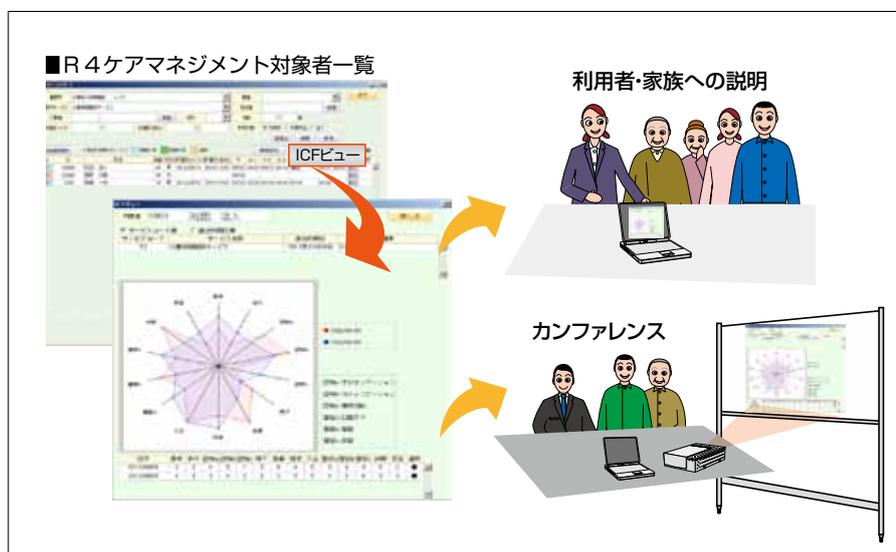


図-3 ICFビュー機能